

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		地域で暮らす人と看護				
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1年次	履修時期	前期～後期
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	30時間	試験時間	なし
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的		地域で暮らす人々の生活を理解し、生活や地域の特性と健康との関連性について理解する。				
学習目標		1. 暮らすこと・生活とは何か、体験をふまえて理解できる。 2. 人と人が繋がり、支えあう必要性を理解できる。 3. 人々が暮らす地域、生活の場としての地域について生活者の視点から理解できる。 4. 地域の特性が健康へ与える影響について考えることができる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法	
	1	1. 暮らすとは、生活するとは何か 2. 支えあって生きるとは…人と人がつながりあう必要性			★事前学習:別紙 講義・協同学習	
	2～9 (15時間)	3. 暮らしの実際を知る 1) オリエンテーション 2) ①～④の施設に行き、暮らしの実際を学ぶ ① ヘルパーステーション ② 居宅介護支援事業所 ③ 相談支援事業所 ④ 夕秀の里			★事前学習:別紙 体験学習	
	10	3) ①～④での学びについて協同学習			協同学習	
	11 (1時間) (3時間)	4. 地域の生活環境と健康との関連性 1) オリエンテーション 2) フィールドワーク ①5つの釧路市の区域(地域包括支援センターの区域)のグループ ②地域住民へインタビュー ③地域探索(実際にその土地に行く)			★事前学習:別紙 グループワーク フィールドワーク	
	12・13	3) グループワーク			グループワーク	
	14・15	4) 発表 暮らしの実際での学びも含める 5) 講評			発表・講義	
使用教材		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (医学書院)				
参考文献						
成績評価の方法		40点 レポート:暮らしの実際での①～④の各施設10点ずつ 40点 発表資料・内容 5点 参加態度、グループの提出物の遵守 15点 事前学習の提出、期日の遵守				

<p>科目の発展性、 勤労者医療 との関連</p>	<p>地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を学習することが大きなねらいである。在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の目的、対象、社会資源について理解していく。そして、多職種の機能と連携の必要性を理解し、在宅看護における看護の役割について学習していく。</p> <p>対象者は地域に暮らす人々であるため、小児・老年・精神・母性の全ての分野と関連している。特に高齢社会であるため、老年看護学との関連は深い。また、対象者である療養者や家族は、勤労者であることもあり勤労者看護とも関連している。在宅で看護を提供するには、必要な訪制度や施策の知識が必要であるため、社会福祉との関連も深い。継続看護においては、各援助論だけでなく実習の場での実践へと発展させていく基礎的知識である。</p>
-----------------------------------	--

科目名		地域・在宅看護概論			
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	1 年次	履修時期 後期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時限	試験時間 1時間
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。			
学習目標		1. 在宅看護の現状から、在宅看護の目的や特徴を考察することができる。 2. 在宅看護の対象者の特徴について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムを構成する関係機関・職種との連携と、看護が果たす役割を理解することができる。			
授業計画	回	授業内容(教科書該当ページ)			授業方法
	1	1. 在宅看護の目的と特性(国民衛生の動向使用) 1)在宅看護の社会背景 2)在宅看護の目的・特徴 …生活を重視する①			講義 協同学習
	2・3	2. 在宅看護の対象者と権利 1)対象者の特徴 ①年齢 ②疾患 ③障害 ④状態別・健康レベル 2)家族 (国民衛生の動向使用) ①介護家族の状況 ②介護負担、虐待 ③家族に関する理論 ④家族アセスメント 3)在宅療養の成立条件 4)療養者の権利 ①自己決定への支援(ACP) ②在宅ケアでの意思決定に関する倫理的諸問題			
	4	3. 在宅療養の支援 1)継続看護(退院調整・退院支援) …生活を重視する② 2)ケアマネジメント			
	5・6・7	4)地域包括ケアシステム、地域包括支援センター ①地域包括支援センターの活動の実際 5)在宅ケアにおける多職種の役割、連携			事前学習:別紙 講義、協同学習
	8	試験			
	使用教材	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論:医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
参考文献					
成績評価の方法		90点:筆記試験 10点:講義態度、提出物の遵守、課題へのとりくみ			

<p>科目の発展性、 勤労者医療 との関連</p>	<p>地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を学習することが大きなねらいである。在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の目的、対象、社会資源について理解していく。そして、多職種の機能と連携の必要性を理解し、在宅看護における看護の役割について学習していく。</p> <p>対象者は地域に暮らす人々であるため、小児・老年・精神・母性の全ての分野と関連している。特に高齢社会であるため、老年看護学との関連は深い。また、対象者である療養者や家族は、勤労者であることもあり勤労者看護とも関連している。在宅で看護を提供するには、必要な訪制度や施策の知識が必要であるため、社会福祉との関連も深い。継続看護においては、各援助論だけでなく実習の場での実践へと発展させていく基礎的知識である。</p>
-----------------------------------	--

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		地域・在宅看護援助論Ⅰ(日常生活援助技術)			
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	2年次	履修時期 前期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時限	試験時間 1時間
担当教員		専任教員、非常勤講師	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		日常にある物品や福祉用具の活用も含め、在宅での日常生活援助技術について習得する。			
学習目標		1. 在宅における安全性の保障に向けたリスクマネジメントについて理解する。 2. 地域・在宅看護における多職種連携・協働、看護職が行うマネジメントについて理解する。 3. 療養者の日常生活動作を生活行為として統合的に捉え、アセスメント能力を身に着ける。 4. 在宅における日常生活への援助技術を習得する。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1～3	1. 地域・在宅看護マネジメント 1) ケアマネジメント、ケースマネジメント 2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 3) 多職種連携・多職種チームでの協働 ① フォーマル・インフォーマル 2. 在宅看護における安全性の確保 1) 医療事故防止 2) 感染防止 3) 療養生活上の安全の確保 4) 緊急時の在宅看護 5) 災害時における在宅療養者と家族の健康機器管理 6) 個人情報などの情報開示			1・2回目に、 基盤の教科書 のP133～ 142を学習する 講義 協同学習
	4～7	3. 在宅で求められる看護技術 1) 生活過程、生活行為 2) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ① 在宅での食生活の特徴 ② 食生活・嚥下に関するアセスメント ③ 食生活・嚥下への介助のポイント ④ 嚥下訓練 3) 呼吸機能に関する在宅看護技術 ① 在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴 ② 呼吸機能アセスメント ③ 呼吸機能への介助のポイント 4) 排泄に関する在宅看護技術 ① 在宅での排泄の特徴 ② 排尿のアセスメントとケア ③ 排便のアセスメントとケア 5) 移動・移乗に関する在宅看護技術 ① 在宅での移動・移乗の特徴 ② 移動・移乗のアセスメント ③ 移動・移乗の介助に関するポイント (環境整備、生活リハビリテーション) 6) 清潔に関する在宅看護技術 ① 在宅での清潔援助の特徴 ② 清潔に関するアセスメント ③ 清潔の介助に関するポイント			
	8	試験			
	使用教材				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

参考文献	
成績評価の方法	95点 筆記試験 5点 講義内での課題への取り組み、提出物、出席態度
科目の発展性、 勤労者医療との関連	<p>在宅療養者の日常生活の支援や在宅で看護を展開するにあたり、療養者と家族が「生活する」ことを支えるという視点が重要です。療養者や家族へ看護技術を提供するには、療養者・家族の生き様の根本を支える部分の“生活過程”を理解することが不可欠です。</p> <p>在宅での日常生活援助技術を学ぶことは、入院中の患者・家族への退院指導に繋がる知識である。そのため、各実習へと発展させていく科目である。</p>

科目名		地域・在宅看護援助論Ⅱ(医療処置技術)			
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	2年次	履修時期 後期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時限	試験時間 1時間
担当教員		訪問看護師	実務経験	訪問看護実務経験あり	
科目目的		医療管理を必要とする在宅療養者・家族への看護を理解する。			
学習目標		1. 訪問看護の目的、制度、実施機関、訪問看護師の役割を理解する。 2. 訪問看護ステーションの設置、運営、従事者、対象者、サービスと利用までの流れを理解する。 3. 医療管理が必要となった療養者・家族の心理・社会的側面の特徴と看護を理解する。 4. 医療管理に対して起こり得る危険とその要因と対処方法を理解する。 5. 自宅での医療管理における安全へのサポートや、必要な指導について理解する。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	1. 訪問看護の制度 1) 訪問看護の利用者と訪問回数 2) 訪問看護ステーションに関する規定 3) 訪問看護利用までの手順 4) 訪問看護の費用 2. 訪問看護サービスの提供 1) 管理・運営 2) 訪問看護の役割			講義
	2	1. 医療管理を伴う在宅看護技術 1) 経管栄養 2) 在宅中心静脈栄養(HPN) 3) 在宅持続皮下注入法			講義 協同学習
	4	4) ストーマケア 5) 褥瘡ケア			講義 協同学習
	5	6) 膀胱留置カテーテル 7) CAPD療法			講義 協同学習
	6	8) 在宅酸素療法(HOT)			
	7	9) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 10) 在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法			
	8	試験			
使用教材		①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (医学書院) ②ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)			
参考文献					
成績評価の方法		筆記試験100%			

科目名		地域・在宅看護援助論Ⅲ(在宅看護過程の基礎)			
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	2年次	履修時期 後期
単位(時間数)		1単位(15時間)	講義時間	14時限	試験時間 1時間
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		在宅看護過程の展開のポイントおよび展開方法と、在宅療養者の状態に応じた看護を理解する。			
学習目標		1. 療養者や家族を、「生活の側面」で理解する情報収集のポイントを理解する。 2. 在宅における健康課題の明確化の過程を理解する。 3. 目標・実施・評価における在宅のポイントを理解する。 4. 在宅療養者の様々な状態に応じた、在宅看護を理解することが出来る。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	1. 在宅看護過程の展開のポイント 1) 対象者の生活と価値観の多様性の尊重 2) 環境や家族への視点、時間への着目 3) 生活を支える制度、支援体制の理解 2. 在宅看護過程の展開方法 1) 在宅看護過程の目的・意義 2) 在宅看護過程の特徴 ①医療の側面と生活の側面 ②強みと弱み			講義 協同学習
	2・3	3) 情報収集とアセスメント ①総合的機能…疾患・医療的ケア、環境、活動、理解・意向 ②強みと弱み 4) 健康課題の明確化 …問題解決着眼型、リスク着眼型、強み着眼型(ウェルネス) 5) 目標の設定・計画 ①長期目標・短期目標の設定のポイント ②在宅看護計画の立案のポイント 6) 実施と評価 ①行動計画・手順、的確な援助の提供 ②訪問看護の記録			講義 協同学習
	4				
	5	3. 状態別在宅看護 1) 脳血管疾患 2) 認知症 独居療養者に対する看護 服薬管理			講義 協同学習 各状態別において、ケアマネジメント演習を含む
	6	3) 難病 ①コミュニケーション ②小児の療養者に対する看護 ③緊急時・災害時の対応			
	7	4) 終末期			
	8	試験			
使用教材		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (医学書院)			
参考文献					
成績評価の方法		筆記試験100%			

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

<p>科目の発展性、 勤労者医療 との関連</p>	<p>在宅看護過程は「生活する」ことを支える視点であるため、看護の基礎的視点である。退院支援が重要視されている今日において、各病期や発達段階、世帯、介護の状況に合わせたケアマネジメントは、地域・在宅看護論実習だけでなく各実習へと発展させていく科目である。</p> <p>状態別看護では、介護者(家族を含む)への看護も学ぶ。勤労者である家族も多く、療養者の状態に応じた家族へのケアについても学習することから、勤労者医療との関連もある。</p>
-----------------------------------	--

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		地域・在宅看護援助論Ⅳ(在宅看護過程の展開)			
教育内容		専門分野 地域・在宅看護論	履修年次	3年次	履修時期 前期
単位(時間数)		単位(15時間)	講義時間	15時限	試験時間 なし
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		既習の知識を統合させながら、在宅で療養する多様な健康障害を持つ対象の状態に応じた看護を理解する。			
学習目標		各事例の療養者・家族に応じた在宅看護過程を展開し、ロールプレイングを通して必要な看護を理解する。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1 1時間	1. 地域・在宅看護援助論Ⅳの概要説明 2. 看護過程の展開 1)グループワークについてオリエンテーション 事例①パーキンソン病 ②胃癌末期 ③アルツハイマー型認知症			講義 グループワーク ★事前学習:各事例の看護過程提出
	2・3 3時間 3・4 3時間	2)グループワークの取り組み 3)各事例の看護過程の質疑応答・講評			グループワーク
	5・6	3. 各事例の演習 1)各事例の立案した看護計画に基づいたロールプレイングの課題提示、オリエンテーション 2)課題への取り組み			グループワーク
	7・8	3)演習 4)質疑応答 5)講評			演習 講義
使用教材		系統看護学講座 統合 在宅看護論 (医学書院)			
参考文献					
成績評価の方法		1. 事前学習への取り組み10点 2. 事例検討グループワーク 30点 3. ロールプレイング 40点 4. 参加態度 5点 5. レポート、評価修正した看護計画と記録 15点			
科目の発展性、勤労者医療との関連					